

治療計画室

2018年9月の新棟移設に伴い、治療計画装置(RTPS)は Varian 社の Eclipse Version 15.6 に更新となりました。治療計画装置はサーバー(ARIA サーバー)と4台のクライアント(Eclipse 端末)で構成され、並列して使用することが可能です。放射線治療計画 CTを撮像後、患者様の情報と画像データを ARIA サーバーに転送することで、治療計画作成可能な状態となります。立案された治療計画の情報を対応するリニアック室に取り込むことで照射可能となります。



Eclipse 端末(治療計画室:3台)



Eclipse 端末(RALS 室:1台)
(上)と ARIA サーバー(下)

当院の放射線治療の流れを簡単にご説明します。

- ① 放射線治療専用の CT シミュレータを使用して照射する場所を決めるための撮影をし、特殊なインクを使用して印や線を描きます。この時に、照射時に頭や体が動かないようにするための固定具を作成する場合があります。
- ② 放射線治療科医師が治療計画を作成します(放射線の当て方を決めます)。症例や部位に応じて放射線の方向・本数・エネルギーなどを変えます。
- ③ リニアック室で放射線を照射する部位(あるいはその周り)に、特殊なインクを使用して印や線を描きます。また、この際リニアック装置を使用して X 線写真を撮影し、照射位置の確認を行います。
- ④ 症例により1日1回、週4回または5回照射します。回数は数回から35回ほどです。初回照射時や照射方法の変更時は30~60分、それ以外の通常の照射は10分ほどで終了します。